

令和2年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和2年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評 価 コ メ ン ト
			H31	R1	R2		
熊本県	八代市	東陽山村振興協議会	●	●	■	A	

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である東陽中学校 校長 楠本功一、東陽放課後児童クラブ部会長、婦人会長 平木恵子から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

東陽中学校校長 楠本 功一
東陽放課後児童クラブ部会長、婦人会長 平木 恵子

【意見聴取の概要】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で事業実施が難しい中、東陽山村振興協議会を中心に5つの部会(特産品加工部会、コンニャク部会、特殊農産物部会、ニホンミツバチ部会、わさび部会)による地域資源を活用した様々な取り組みを行ったことについては評価できるが、昨年同様に各部会員の人員確保が課題と思われるため、今後はそれぞれの部会の後継者の育成、所得の向上などの事業推進を行っていただきたい。

また、地域情報誌を活用したPR活動、地元でのイベントについては、八代市周辺への販売戦略として効果が出ていることから、今後は継続した顧客の確保を目指して更なる活動を期待する。

特に、特殊農産物部会、ニホンミツバチ部会については、今後も自主的活動が継続できる状況にあることは、本事業の目的に合った取り組みができたということであり、部会活動の更なる発展を期待するとともに、引き続き行政側の事務的・人的支援をお願いしたい。